

表-1 スマスロAT／ART-コイン単価別業績

2025/12/8週							
	コイン単価	アウト	PLアウト	台数	台数比率 (%)	PL客数	PL客数比率 (%)
2.5円未満	2.21	7,593(1,698)	3,172(1,140)	214	1.8(0.8)	3,323	1.8(0.7)
2.5円以上3円未満	2.89	15,426(10,332)	4,531(2,123)	498	4.1(1.4)	9,850	5.4(3.1)
3円以上3.5円未満	3.31	7,823(▲383)	3,447(▲8)	4,521	37.7(▲5.9)	65,095	35.5(▲8.6)
3.5円以上4円未満	3.76	8,409(▲453)	3,227(▲65)	3,863	32.2(9.2)	64,239	35.0(8.9)
4円以上	4.31	7,103(377)	3,265(▲11)	2,911	24.2(▲5.5)	40,987	22.3(▲4.0)

※カッコ内は前年同月期との差分、コイン単価は市場実績値を基に集計

表-2 パチスロ-タイプ別業績

2025/12/8週						
	ノーマル	6号機	6.5号機	スマスロAT/ART	スマスロノーマル	20円
アウト	9,028(▲129)	4,886(1,141)	6,488(858)	8,148(343)	7,063(296)	8,200(451)
PLアウト	1,721(▲61)	2,524(76)	2,477(18)	3,382(58)	1,660(10)	2,439(8)
メイン比率 (%)	42.2(▲1.9)	36.9(▲0.3)	41.5(1.7)	44.0(1.0)	33.2(11.0)	42.8(0.2)
台粗利	2,646(▲43)	1,076(▲95)	3,073(175)	3,658(▲261)	2,941(▲181)	3,233(▲28)
勝率 (%)	26.2(▲0.3)	30.7(0.7)	25.7(▲1.5)	27.0(▲0.4)	28.2(6.8)	26.7(▲0.4)
勝金額	8,858(▲163)	14,794(752)	20,943(2,008)	29,563(1,116)	10,634(▲303)	18,146(773)
台数比率 (%)	30.8(▲0.9)	1.7(▲3.0)	7.6(▲5.9)	56.5(6.4)	3.4(3.3)	100

※カッコ内は前年同月期との差分

MSD
マース戦略データ

MSD
マース戦略データ



PART.2 パチスロ市場の2026年はこんな年になる!

👉 PS比率「50:50」になるのは
確実か

👉 ユーザーの嗜好は高純増から
ゲーム性重視に!?

👉 BT機は積極的に導入するべし!



高単価機依存に危険信号 作り込み評価の時代へ

2026年の市場展望を
考察するうえで2025年
のパチスロ市場について振
り返っておきたい。

マースエンジニアリン
グのMSDデータによる
と、2025年のアウトは
2024年を上回る推移を
見せ、平均すると20円は前
年比102%程度、5円は
同106%程度で着地した。

店舗内のPS比率につい
ては、2025年2月に20
円パチスロの設置比率が4
円パチンコを上回り、それ
以降も「P減S増」の傾向
は継続。営業の軸がパチス
ロ主体の状況は揺るがない。

また、「ボーナストリガー
機（BT機）」の登場という
新たなトピックもあり、ホー
ル、ユーザーの目はパチス
ロに向いていた1年だった

のではないだろうか。

中単価機の設定運用が
昨年に引き続き重要に

まずは表1を見てもらい
たい。これは、2025年
12月におけるスマスロのコ
イン単価別データだ（各項
目のカッコ内は2024年
同時期との差分を表記）。

スマスロAT／ART機
のトレンドとなっている「コ
イン単価4円以上」の高単
価機種は、台数比率、PL
比率ともに減少傾向となる
一方、「3.5円以上4円未
満」が台数、PL客数とも
に大きく伸ばしている状況
だ。これは『東京喰種』『
ざー番長』『アズールレーン』
といった機種の稼働が好調
だったことが要因だろう。

一方、『モンキーターン』
『北斗の拳』といった「コイ
ン単価3円以上3.5円未
満」の中単価帯については、
台数比率、客数比率ともに
減少した。昨年の同特集に
おいて、中単価機種の運用

が重要であると予測したが、
実際には中単価機種よりも
少し荒い機種が市場での
シェアを伸ばす形となった。

だが、この状況は長く続
かないとみる関係筋は多い。
あるパチスロコンサルは、
その理由について「徐々に
高単価機がつくりづらい状
況になっていると聞く。そ
うなれば高単価機の魅力は
次第に減っていき、シェア
の伸びは止まるとみている」
と説明する。

また、マースエンジニア
リングの営業企画部販売促
進グループの山本貴大氏は、
打ち込み要素のある機種に
着目する。
「昨年のヒット機種の傾向
に『リメイク』という要素
があった。『吉宗』『マギアレ
コード』『化物語』など、4
号機、5号機でヒットした
ゲーム性をスマスロで再現
しており、新規IPの機種
よりも動きが良かった。特
にマギレコ、化物語は中単
価帯に属し、作り込みも良

く打ち込み要素も豊富。今
年はこうしたリメイク機種
が台頭する可能性が高い」。

今年も引き続き、中単価
機の設定運用については常
に意識を向けておく必要が
ありそうだ。

利益・稼働面において BT機は積極導入が吉

パチスロのニューフェイ
ス・BT機が登場して以
降、スマスロノーマルの設
置シェアは3.4%程度まで
増加し（表2参照）、現在も
『アレックス』『クレア』『シェ
イク』などが20円平均稼働
を上回っている。ユーザー
目線に立てば、勝率、勝金
額ともに高いというBT機
のアドバンテージを体感し
ているからこそその結果だろ
う。前出の山本氏は、今年
はBT機の積極導入が有効
と推奨する。

「BT機はノーマルタイプ
だけでなく、スマスロAT
／ARTとの回遊性も非常
に高い。特に、先述した中

単価機との親和性が高いこ
とから、昨年振るわなかつ
た中単価機との良い相乗効
果を狙うことができるだろ
う」。

また、現存する6号機ノー
マル（ジャグラーシリーズ
除く）は低粗利での機種運
用が求められることから、
BTへの入替を進めること
により売上底上げに寄与す
ることも期待がかかる。

好調さが続くパチスロ市
場だが、その勢いが衰えて
きていることもまた事実。
この状況を打破する世代交
代機の登場や、高純増に頼
らない遊技機の作り込み、
高単価機に依存しない営業
の確立などの課題に対応し
ていく必要がある。

とはいえ、パチンコの現
状を考えると、今年1年も
パチスロ好調のトレンドは
揺るがず、P減S増傾向も
継続し、設置比率はついに
「50:50」の時代へ突入す
ることはほぼ確実ではないだ
ろうか。